

令和 8 年度病虫害発生予察予報第 6 号(令和 8 年 9 月)

令和 8 年 9 月 3 日
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量※
水稲 (普通期稲)	いもち病(穂いもち) 紋枯病 ごま葉枯病 ツマグロヨコバイ ヒメトビウンカ セジロウンカ トビイロウンカ コブノメイガ フタオビコヤガ 斑点米カメムシ類	<u>多(中央、中西)、やや多(東、西)</u> <u>多(中央、中西、西)</u> 、少(東) <u>多(西)、やや多(中央)</u> 、平年並(中西)、やや少(東) <u>多(中央、西)、やや多(東)</u> 、少(中西) <u>多(東、西)</u> 、平年並(中西)、やや少(中央) <u>やや多(東、中央、中西)</u> 、やや少(西) <u>多(東)、やや多(中西)</u> 、少(中央、西) <u>多(東、西)</u> 、少(中央、中西) <u>多(西)、やや多(中央)</u> 、少(東、中西) <u>多(西)、やや多(東、中央、中西)</u>
カンキツ類 (温州ミカン)	黒点病 かいよう病 ミカンハダニ 果樹カメムシ類	やや少(中央) <u>多(中央)</u> <u>多(中央)</u> <u>多(中央)</u>
カンキツ類 (中晩柑類)	そうか病 黒点病 かいよう病 ミカンハダニ 果樹カメムシ類	少(県下全域) <u>多(中西、西)</u> 、平年並(中央)、やや少(東) <u>多(中央)</u> 、少(東、中西、西) <u>多(中西、西)、やや多(東、中央)</u> <u>多(県下全域)</u>
青ネギ	シロイチモジヨトウ	<u>多(中央)</u>
促成ナス	フザリウム立枯病	少(県下全域)
野菜類	ハスモンヨトウ	<u>多(東)、やや多(中西、西)</u> 、平年並(中央)

※ ()内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部
県東部：安芸市、室戸市および安芸郡の町村
県中央部：高知市、南国市、香美市、香南市、長岡郡・土佐郡の町村、
吾川郡いの町および高岡郡日高村
県中西部：土佐市、須崎市、高岡郡(日高村を除く)町村および吾川郡仁淀川町
県西部：四万十市、宿毛市、土佐清水市および幡多郡の町村

I 気象予報(高松地方気象台 8月27日発表)

8月29日から9月28日までの天候見通し

＜予想される向こう1か月の天候＞

今後1か月程度は気温の高い状態が続き、期間のはじめは気温がかなり高くなる見込みです。また、今後2週間程度は少雨の状態を解消するほどのまとまった雨が降る可能性は小さい見込みです。

向こう1か月の天候は、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率が80%です。

向こう1か月の降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多いでしょう。

週別の気温では、1週目は高い確率が70%です。2週目は平年並または高い確率ともに40%です。3～4週目は、高い確率50%です。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞

期間	対象地域	要素	低い(少ない)		平年並	高い(多い)	
1か月	四国地方	気温	10	40		50	
		降水量	40		40	20	
		日照時間	20	40		40	

＜気温経過の各階級の確率(%)＞

期間	対象地域	低い		平年並	高い
1週目	四国地方	10	20	70	
2週目		20	40	40	
3～4週目		20	30	50	

＜予報の対象期間＞

1か月：8月29日(土)～9月28日(月)

1週目：8月29日(土)～9月4日(金)

2週目：9月5日(土)～9月11日(金)

3～4週目：9月12日(土)～9月25日(金)

II 病虫害発生予想

1 水稻(普通期稲)の病虫害

1)いもち病(穂いもち)

予 想 発生量：多(中央部、中西部)、やや多(東部、西部)

根 拠

(1) 8月の調査では県下全域で穂いもちの発生が確認されており、発生面積は中央部、中西部で多く、東部、西部で平年並であった。発生程度は中央部、中西部で高く、西部で平年並、東部でやや低かった。

(2) 例年9月は多くの地域で発生し、拡大する傾向が見られる。

(3) 9月は晴天日が多く、降水量は平年並か少ないと予想されているが、例年の傾向

を考慮すると現状より発生は増加すると考えられる。

対 策

QoI剤の使用回数は、耐性菌の発生を防止するため、作期を通じて1回とする。

2) 紋枯病

予 想 発生量：多(中央部、中西部、西部)、少(東部)

根 拠

- (1) 8月の調査では、中央部、中西部、西部で発生が見られ、発生面積は中央部、西部で平年よりも多く、中西部でやや多かった。発生程度は中央部、西部で高く、中西部で平年並であった。
- (2) 例年9月は県下全域で発生が増加傾向となり、8月に発生が確認されなかった東部においても、発生が見られ始めると考えられる。
- (3) 本病は高温、多湿条件で発生が助長される。9月の気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないと予想されていることから、大きな増加は無いものの、例年の傾向を考慮すると現状より発生は増加すると考えられる。

対 策

止葉まで発病すると、稔実が悪くなり減収するので、発生が予想される場合には薬剤防除を行う。

3) ごま葉枯病

予 想 発生量：多(西部)、やや多(中央部)、平年並(中西部)、やや少(東部)

根 拠

- (1) 8月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は西部で平年よりもやや多く、中央部で平年並、中西部でやや少なく、東部で少なかった。発生程度は西部で平年よりも高く、中央部で平年並、中西部でやや低く、東部で低かった。
- (2) 例年9月は8月と同様県下全域で発生が増加傾向となる。
- (3) 本病の発生は、肥切れによって助長される。9月は晴れが多く、気温は平年より高いと予想されているため肥切れが助長され、発病が増加すると考えられる。

対 策

発生が多く見られるほ場では、冬期に客土や深耕により土壌改良を行う。

4) ツマグロヨコバイ

予 想 発生量：多(中央部、西部)、やや多(東部)、少(中西部)

根 拠

- (1) 8月の調査では、東部、中央部、西部で発生が見られ、発生面積は中央部、西部で平年よりも多く、東部でやや多かった。発生程度は中央部、西部で高く、東部でやや高かった。
- (2) 例年9月は県下全域で減少する傾向となる。
- (3) 9月の気温は平年よりも高いと予想されており、本虫の増殖に好適な条件が続くが、例年の傾向を考慮すると現在の発生が続くと考えられる。

対 策

出穂期から登熟期にかけて密度が高くなると、実入りが悪くなることがあるので、薬剤防除を行う。

5) ヒメトビウンカ

予 想 発生量：多(東部、西部)、平年並(中西部)、やや少(中央部)

根 拠

- (1) 8月の調査では県下全域で発生が見られ、発生面積は東部、西部で平年より多く、中西部で平年並、中央部で少なかった。発生程度は東部、西部で平年より高く、中西部で平年並、中央部で低かった。
- (2) 例年9月は中央部、西部では横ばいで推移し、東部、中西部では減少する傾向にある。
- (3) 9月の気温は平年よりも高いと予想されており、本虫の増殖に好適な条件が続くことから中央部、西部では増加し、東部、中西部では現在の発生が続くと考えられる。

対 策

本県では本虫の媒介する縞葉枯病等の発生はほとんど見られない。防除については、ほ場内の密度が増加した場合や、トビイロウンカとの同時防除を実施する。

6) セジロウンカ

予 想 発生量：やや多(東部、中央部、中西部)、やや少(西部)

根 拠

- (1) 8月の調査では県下全域で発生が見られ、発生面積は東部、中央部、中西部で平年より多く、西部は平年並であった。発生程度は東部、中央部、中西部で高く、西部でやや低かった。
- (2) 例年9月は県下全域で減少する傾向がある。
- (3) セジロウンカは出穂期以降長翅型成虫が増加し、ほ場から離脱するため、例年同様発生は減少すると考えられる。

対 策

増加すると下葉や葉鞘が黄変し、排泄物により汚染されてすす病を併発するため、密度が増加した場合や、トビイロウンカとの同時防除を実施する。

7) トビイロウンカ

予 想 発生量：多(東部)、やや多(中西部)、少(中央部、西部)

根 拠

- (1) 8月の調査では東部、中西部で発生が見られ、発生面積は東部で平年より多く、中西部は平年並であった。発生程度は東部で高く、中西部は平年並であった。また、中央部、西部では発生が見られていないが、他地域の発生状況を考慮すると飛来しているものと考えられる。
- (2) 例年9月は県下全域で増加傾向となる。
- (3) 9月の気温は平年よりも高いと予想されており、本虫の増殖に好適な条件が続くことから、例年同様発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は局所的に発生するため、ほ場全体の見回りを徹底する。
- (2) 株元に寄生するので、防除時は薬剤が株元に十分かかるようにする。

8) コブノメイガ

予 想 発生量：多(東部、西部)、少(中央部、中西部)

根 拠

- (1) 8月の調査では県下全域で発生が見られ、発生面積は東部、西部で平年より多く、中央部、中西部で少なかった。発生程度は東部、西部で平年より高く、中央部、中西部で低かった。
- (2) 例年9月は東部で増加し、他の地域は減少するものの一定の発生が見られる傾向にある。
- (3) 9月の気温は平年よりも高いと予想されており、本虫の増殖に好適な条件が続くことから、東部では増加し、他の地域では現在の状況が続くと考えられる。

対 策

出穂以降の食葉被害は減少すると考えられるが、止め葉の被害葉率が20%を超えると減収になるので注意する。

9)フタオビコヤガ

予 想 発生量：多(西部)、やや多(中央部)、少(東部、中西部)

根 拠

- (1) 8月の調査では中央部、西部で発生が見られ、発生面積は中央部、西部で平年より多かった。発生程度は西部で平年より高く、中央部は平年並であった。
- (2) 例年9月は中西部のみで発生し、他の地域では発生が見られない。また、発生する中西部でも発生量は少ない。
- (3) 本虫は高温多湿条件を好む。9月は気温が高く、降水量は平年並か少ないと予想されているため、発生している中央部、西部では現在の状況が続き、東部、中西部でも発生する可能性はあると考えられる。

対 策

葉にカスリ状の食害が見られたら薬剤で防除を行う。発育が早いため、防除が遅れると食害が急拡大する。

10)斑点米カメムシ類

予 想 発生量：多(西部)、やや多(東部、中央部、中西部)

根 拠

- (1) 8月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は県下全域で平年並であった。発生程度は西部で平年より高く、中央部、中西部で平年並、東部で平年よりやや低かった。
- (2) 例年9月に入っても、収穫前のほ場やほ場周辺のイネ科雑草などに本虫の寄生が確認されている。
- (3) 9月の気温は平年並か高くなると予想されており、本虫の増殖に好適な条件が続くことから発生は増加する考えられる。

対 策

- (1) 防除適期は出穂10日後頃およびその5～7日後であるが、糊熟期までにカメムシ類の発生が見られる場合には防除を実施する。
- (2) ミナミアオカメムシの発生が見られる場合は、合成ピレスロイド剤の効果が劣るので、他系統の剤(ネオニコチノイド剤等)を用いる。

2 カンキツ(温州ミカン)の病害虫

1)黒点病

予 想 発生量：やや少(中央部)

根 拠

- (1) 8月の調査では発生面積は平年より少なく、発生程度は平年より低かった。
- (2) 例年9月以降は増加傾向となる。
- (3) 9月の降水量は平年並か少ないと予想されているが、例年の発生状況から増加傾向で推移すると考えられる。

対 策

- (1) 密植園での間伐、老木の更新、防風林の整備等により、枯枝の発生ができるだけ少なくなるように管理する。
- (2) 前回の防除以後の累積降雨量が250mm前後に達した時点で次の散布を行う。一般的には5月中下旬から7月上旬の間に3回程度、8月下旬から9月上旬にかけて1～2回散布する。発病の多いほ場では適宜散布回数を増やす。

2)かいよう病

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1) 8月の調査では、発生面積は平年より多く、発生程度は平年より高かった。
- (2) 例年9月以降は現在の発生状況が続く傾向となる。
- (3) 9月の降水量は平年並か少ないと予想されているが、例年の発生状況を考慮すると現在の状況が続くと考えられる。

対 策

銅剤等の散布による予防に努めるとともに、発病が見られる

3)ミカンハダニ

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1) 8月の調査では発生面積は平年並、発生程度は平年より高かった。
- (2) 例年9月以降は8月と同程度の発生が続く傾向にある。
- (3) 9月の気温は本虫の増殖に好適な気温となり、降水量も平年並か少ないと予想されているため、発生は増加すると考えられる。

対 策

薬剤抵抗性の発達を避けるため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

4)果樹カメムシ類

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1) 8月の調査では園地での発生は確認されなかった。
- (2) 中央部に設置したフェロモントラップによる8月の誘殺数は5,318頭(平年値270.3頭)で平年の約20倍とかなり多くなっている。また、中央部の予察灯においては、ミナミアオカメムシ192頭(同175.1頭)、ツヤアオカメムシ56頭(同9.4頭)、チャバネアオカメムシ48頭(同45.7頭)と、いずれも平年を上回った誘殺数となっている。

- (3) 9月の気温は平年並か高くなると予想されており、今後、本虫の活動が活発になると予想される。

対 策

本虫が山林で餌としているスギやヒノキの毬果が、吸汁や台風等の強風により落下した後に、餌を求めて果樹園に飛来してくることが予想される。果樹園周辺の雑木林から飛来してくるので、ほ場内をよく観察して、飛来を確認したら速やかに防除を実施する。

3 カンキツ(中晩柑類)の病害虫

1) そうか病

予 想 発生量：少(県下全域)

根 拠

- (1) 8月の調査では東部で発生が見られた。発生面積は平年より少なく、発生程度は低かった。
- (2) 例年9月以降は8月と同程度の発生が続く傾向にある。
- (3) 9月の降水量は平年並か少なく、晴れの日が多いと予想されており、また、果実が大きくなってくると感染リスクが低いことから、大幅な発生の増加はないと考えられる。

対 策

幼木や発生の多い園地では、黒点病との防除をかねて、予防的な薬剤散布により感染を防ぐ。また、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

2) 黒点病

予 想 発生量：多(中西部、西部)、平年並(中央部)、やや少(東部)

根 拠

- (1) 8月の調査では県下全域で発生が見られ、発生面積は中央部、中西部、西部で平年よりも多く、東部でやや少なかった。発生程度は中西部、西部で高く、東部でやや低く、中央部で低かった。
- (2) 例年9月以降は増加する傾向にある。
- (3) 9月の降水量は平年並か少ないと予想されており、例年の傾向も考慮すると現在の発生状況が続くと予想される。

対 策

- (1) 密植園での間伐、老木の更新、防風林の整備等により、枯枝の発生ができるだけ少なくなるように管理する。
- (2) 前回の防除以後の累積降雨量が250mm前後に達した時点で次の散布を行う。一般的には5月中下旬から7月上旬の間に3回程度、8月下旬から9月上旬にかけて1～2回散布する。発病の多いほ場では適宜散布回数を増やす。

3) かいよう病

予 想 発生量：多(中央部)、少(東部、中西部、西部)

根 拠

- (1) 8月の調査では東部、中央部で発生が見られ、発生面積は中央部で平年より多く、東部で少なかった。発生程度は中央部で高く、東部で低かった。

- (2) 例年 9 月以降は増加傾向となる。
- (3) 9 月の降水量は平年並か少ないと予想されているが、例年の発生状況を考慮すると現在の状況が続くと考えられる。

対 策

銅剤等の散布による予防に努めるとともに、発病がみられる夏秋梢を剪定、除去する。

4) ミカンハダニ

予 想 発生量：多(中西部、西部)、やや多(東部、中央部)

根 拠

- (1) 8 月の調査では県下全域で発生が見られ、発生面積は中西部、西部で平年より多く、東部、中央部でやや多かった。発生程度は中西部、西部で平年より高く、東部、中央部で平年並であった。
- (2) 例年 9 月以降は 8 月と同程度の発生傾向となる。
- (3) 9 月の気温は本虫の増殖に好適な気温となり、降水量も平年並か少ないと予想されているため、発生は増加すると考えられる。

対 策

薬剤抵抗性の発達を避けるため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

5) 果樹カメムシ類

予 想 発生量：多(県下全域)

根 拠

- (1) 8 月の調査ではチャバネアオカメムシやクサギカメムシの寄生が確認された。
- (2) 県内 4 地点に設置したフェロモントラップによる 8 月の誘殺数は、東部で 3,303 頭(平年値 206.1 頭)、中央部で 5,318 頭(同 270.3 頭)、中西部で 2,808 頭(同 308.6 頭)、西部で 12,622 頭(296.7 頭)と、県下全域で平年よりかなり多くなっている。また、県内 2 地点に設置した予察灯においては、南国市でミナミアオカメムシ 240 頭(平年値 175.1 頭)、チャバネアオカメムシ 62 頭(同 45.7 頭)、ツヤアオカメムシ 79 頭(同 9.4 頭)、四万十市でミナミアオカメムシ 23 頭(平年値 0.0 頭)、チャバネアオカメムシ 77 頭(同 42.1 頭)、ツヤアオカメムシ 2 頭(同 56.7 頭)と、多くの種で平年を上回った誘殺数となっている。
- (3) 9 月の気温は平年並か高くなると予想されており、今後、本虫の活動が活発になると予想される。

対 策

本虫が山林で餌としているスギやヒノキの毬果が、吸汁や台風等の強風により落下した後に、餌を求めて果樹園に飛来してくることが予想される。果樹園周辺の雑木林から飛来してくるので、ほ場内をよく観察して、飛来を確認したら速やかに防除を実施する。

4 青ネギの病害虫

1) シロイチモジヨトウ

予 想 発生量：多(中央部)

根 拠

- (1) 発生面積は平年より多く、発生程度は高かった。
- (2) 9月の気温は本虫の増殖に好適な気温となり、降水量も平年並か少ないと予想されているため、発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 卵塊や幼虫は見つけ次第除去する。
- (2) 幼虫が葉内に食入すると効果が落ちるので葉内食入前の若齢期に薬剤防除を行う。
- (3) 同一系統の農薬を連用すると抵抗性が発達しやすいので、異なる系統の農薬をローテーション散布する。

5 促成ナスの病害虫

1) フザリウム立枯病

予 想 発生量：少(県下全域)

根 拠

- (1) 前年に本病が発生したほ場では伝染源量が多いと考えられる。
- (2) 例年12月以降に発病が見られるが、前年はほとんど見られなかった。

対 策

- (1) 発病が見られ始めてから防除を実施しても効果は全く期待できないので、主要な感染時期と考えられる10月までに定期的な防除を実施する。また、芽かき、収穫、整枝などによってできた傷口から発病するので、これらの作業が始まる時期に防除を開始する。
- (2) 罹病残さは伝染源になるので、ハウス内外に放置せず、適切に処分する。

6 野菜類の病害虫

1) ハスモンヨトウ

予 想 発生量：多(東部)、やや多(中西部、西部)、平年並(中央部)

根 拠

- (1) 8月のフェロモントラップへの誘殺数は、東部で平年よりやや多く、中西部、西部で平年並、中央部でやや少なかった。
- (2) 9月の気温は平年よりも高いと予想されており、本虫の増殖に好適な条件が続くことから発生は増加すると考えられる。

対 策

- (1) 卵塊や孵化幼虫が寄生している葉を見つけ次第除去する。
- (2) 薬剤防除を行う場合、発生初期の防除を心がける。
- (3) 施設栽培では、開口部にネット被覆を行い成虫の侵入を防止する。交信かく乱剤の利用も効果的である。

農作物の病虫害防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病虫害防除所ホームページ(こうち農業ネット)<https://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>

- ①病虫害発生予察月報、病虫害発生予察予報
- ②病虫害発生予察注意報、病虫害発生予察警報、病虫害発生予察特殊報
- ③病虫害発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病虫害 etc.

高知県農薬情報システム <https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/haishinfile/list/kochi>

- ①農薬の検索
- ②農薬データの一覧
- ③配信ファイルの閲覧(農薬安全使用、病虫害防除指針 etc.)